

令和3年度第1回 高知市生活習慣病予防に関する協議会議事録

日時：令和3年11月12日（金）

18時30分～20時00分

場所：総合あんしんセンター2階大会議室

- 1 開会
 - 2 新任委員紹介
 - 3 会長・副会長の選出
 - 4 議事
- 1) 高知市いきいき健康チャレンジについて（事務局 梅原）

【新谷会長】

高知市いきいき健康チャレンジの去年度の報告と、今年度の取組状況と予定について報告がありました。ご質問またはご意見などはございませんか。

【公文委員】

素晴らしい活動だと思います。ただ、高知市歯科医師会が毎年実施している歯っぴいスマイルフェアが近年中止となっております。そういうところで、PR活動していただいているところが、なかなかできず、高知市歯科医師会だけでなく、なかなかそういう場が少なくなっているということが、今年が去年より参加人数が減っている要因かなと思います。

ただ、それだけなのかなと感じます。PRする場が少なくなっているだけなのか、コロナ禍で参加者がそういう余裕がなくなっているのかとか、様々な要因があると思います。それに関して、わかっていることがあれば、教えていただきたいです。

【新谷会長】

事務局からはどうでしょうか。

【事務局】

ご意見ありがとうございました。

今、公文委員さんからご発言があったように、啓発の機会がないことについては、私どもも保健所職員として、新型コロナウイルス感染症への対応をしていたということもありまして、本当に啓発機会がなく、実質、啓発活動ができたのは、本事業の申込みが終わる間近の10月から、市民の方にお会いできたという状況でした。

ただ、本当におっしゃっていただいたように、まず啓発の機会の減少ということよりも、市民の皆さんに余裕がないということがあるのかもしれないです。これは来年度の活動の中で啓発ができたとしても、申込みが伸びない場合は、啓発機会よりも別のことに要因があるのかなというふうな視点を持って、分析をしなければならないと、今思っています。ご意見ありがとうございました。

いました。

【新谷会長】

このいきいき健康チャレンジは6年目の取組ということで、いろいろ啓発にご苦労されたんですね。確かに、参加者にとっても、感染症の影響もあったことと思います。委員の皆様の所属団体の方で、一緒に取り組まれていたり、委員さん自身も実際に自分が取り組まれているという方もいらっしゃると思うんですが、そういった方が実際に取り組まれてのご意見とか、あるいはご助言はございませんか。

この事業をさらに広げていくためにはどういうふうにしていくべきか、提案で結構ですがどうでしょうか。

【公文委員】

先ほどのお話、流れとしてですね、要は新型コロナ感染症の影響がかなり出ていると考えていますが、少なくとも、前年から引き続き参加されてる方っていうのは、かなりおられます。

だから、新型コロナ感染症があったとしてもやっぱり去年やっていた人は今年も参加しようというふうに考えていると思います。さらに今年参加してくれる人は、来年も、再来年もとだんだん続けていってくれると思います。

その中で、やはり新型コロナ感染症で、逆にちょっと事業参加を恐れている人などを、何とか参加させるためには、そういう感染症予防のためにもやっぱり健康チャレンジが有効であること、こんな時期だからこの取組が有効だといった啓発の仕方をしていくことは大切だと思います。そうしていかないと、今後の新型コロナ感染症はどうなっていくのかは、分からないんですね。来年に向けて、もう少し参加者増やしていこうと思うんだったら、やっぱりコロナ禍での啓発について考えていかないと参加者の増加には、どうしても壁ができるのじゃないかなと思います。いかがでしょうか。

【新谷会長】

皆様、ご意見ございますでしょうか。

【橋本委員】

高知市スポーツ振興事業団は体育館の施設で、スポーツ指導や、スポーツ教室でしたり、小学生から大人、高齢者までの支援を行っていて、参加者が毎回変更します。その中で、高知市いきいき健康チャレンジのPRとして、健康増進課さんから何百枚いただいたチラシを、参加された方にお渡しして、「こんな事業をやっていますよ。参加してくださいね。」とか、お伝えしています。また事業団のフェイスブックで啓発させていただいたこともありました。

ただ、今回はコロナ禍というのもあって、教室が中止になったり、大々的に「教室をしています。参加してください。」と、PRすることができない状況でした。なんでこんな時に、と思われる方も少なからずいらっしゃるのでは配布はしにくかったです。そういった中でも、一部は、チラシを配布したりして、いつも来られている方には直接お渡ししたりだとか、指導員が

声を掛けて「どう、やってみてくださいよ。」というような声を掛けることによって、それらの参加者からは、「もう申し込んでいますよ。」とか、「毎年やっていますよ。」とかお声をいただきます。

また、「アプリとかあれば申込みやすいね。」「アプリのほうが参加しやすいね。」といった声は多少若い参加者から聞かれます。若い人からすると紙に書くことについて、「毎回書いて記録するっていうのがちょっとね。」ということもあるので、それもネックなのかな、とは思いますが。

事業団としても4～5グループくらいが、事業所のグループ申込みとして本事業に参加しました。ノートに書くっていうのに抵抗のある職員もいました。

【新谷会長】

ありがとうございました。これからアプリの方も広がっていくのではないかと思います。

また、保健指導を実施している委員さんの中で、対象者に勧めるなどご活用いただいたことがあれば、どうだったのかっていうようなご意見もいただけたらありがたいですが、いかがでしょうか。

【桑尾委員】

まず検診クリニックとしては、前任の窪委員の時からまずは職員から始めていこうということで、一年目は2グループくらいだったんじゃないかと思うんですが、そこからだんだん増えていって何グループか参加するようになりました。ちょっと今年は私もドロップアウトしてしまいました。昨年度から実施しているのですが、継続しないといけないなと感じました。お客様への対応としては、入り口にポスターなど見えるところに掲示しています。健康サポート事業に関しても、お客様から健診受診の際にお渡しするピンクシールについてお話があったり、取り組まれている方もいらっしゃるなど感じています。

新型コロナウイルスの影響については、体重を測ったり、血圧を測ったり、休肝日や禁煙などについては、外に出なくても屋内で自分で取り組むことができるものなので、そういったことを中心に啓発をしていったらいいかなと感じます。歩く目標については、私も6,000歩くらいになってしまうかなと思います。8,000歩に届くには、20～30分くらいは追加で歩かないといけないので、外に出る必要がありますので、ちょっと気軽に参加しづらいこともあったかなと思いました。

【上原委員】

全国健康保険協会（協会けんぽ）でも職場グループで7チーム参加しています。ノートにつけるのが少し大変といった話も出ていましたが、私もメモしたものを後程記録ノートにつけるようにしています。毎日記録したほうがいいかなと思いつつ、ついメモしてしまっています。去年は記録ノートをしっかりつけたのですが、今年はなかなか難しかったというのがあります。

事業のPRとしては、職場の健康づくり研修会で、参加者に紹介していただいたり、メー

ルマガジンを協会けんぽから配信していますが、それを受け取ってもらっている方にお知らせするとか、協会けんぽからのお知らせを月1回、1万2000社ぐらいに発送するのですが、その中で事業のお知らせをしました。その中で、どれだけの方が申し込んだかは分かりませんが、やっぱり目に触れる機会があるかないかで違うと思います。今後も引き続き実施していきたいと考えています。あと保健指導に行ったときにも、個別にお配りするように何百枚かいただいております。

【川上委員】

保健指導の対象者の方に、受付の期間であればご紹介をするんですけど、「高知家健康パスポートがマイスターになったからもういいよ。」というような声もあって、なかなか繋がる率は低いかなあとこのように思います。

【新谷委員】

私どもの高知県栄養士会ですが、先程報告があったように、7月25日の高知市いきいき健康チャレンジ応援講座で栄養の日・栄養週間に合わせまして、『栄養の整理整頓』というテーマで講座を実施いたしました。

講師は高知県栄養士会の理事が担当いたしました。健康チャレンジの5つの目標について取組の効果をお伝えして、その中でも血圧測定にも関係がある減塩について、食塩の摂取量とか減塩の目標とかその工夫などについて、お伝えいたしました。

それで参加者からは、食塩制限の大切さや、自分の食塩摂取量の見直し、また目標を持ってチャレンジしていくことの重要性、諦めずに続けることの大切さなど、非常に前向きなご意見をいただきました。

また、高知市いきいき健康チャレンジや健康パスポートは素晴らしい取組だというご意見もいただいておりますし、会場がオーテピア高知図書館でしたので、図書館の方のお話が良かったというようなご意見もございました。

このいきいき健康チャレンジは今後もぜひ、県民にとっても魅力あるテーマで継続していただければと思います。

特にこの件に関しまして事務局の方から何かございましたら、お願いいたします。

【事務局】

貴重なご意見をたくさんいただきまして、また高知県栄養士会の皆様には、応援講座でもご協力いただきましてありがとうございます。

いきいき健康チャレンジの特典として、「健康情報を伝えていきますよ。」というような特典を設けていたのですが、やはり新型コロナウイルス感染症の関係で、そういったところでも十分皆様に、提供することができない中、この栄養の応援講座が唯一講座として実施した経過がございます。

先ほどおっしゃっていただいたように、オーテピア高知図書館に会場をお借りして、図

書のPRもしていただきました。このような形で啓発もしていただいて、それを待ち望んでいた感じで市民の方からは嬉しいお声を聞かせていただいておりますので、やはり様々な機関の方々と連携しながらこういった取組を継続していきたいというふうには今思っております。ぜひお力をいただきたいと思っておりますので今後ともよろしく願いいたします。

【新谷会長】

いきいき健康チャレンジの参加特典になっている高知家健康パスポート事業が今年度末で一旦終了するということが決まっているということですが、高知県から何か別の取組の提案なんかはありますか。

【事務局】

ありがとうございます。皆さんのお手元の資料の高知家健康パスポートのパンフレットがあります。現時点で、高知県からは、高知家健康パスポート事業は、紙媒体のものは年度末に終了し、現在アプリを取得していただくようになっており、県がマスコミなども通じて啓発していただいております。

本市の高知市いきいき健康チャレンジも、この健康パスポートのポイントが30ポイント取得できるっていうところは、大きなインセンティブで、市民の方も、喜んでくださっていますが、川上委員もおっしゃっていたように、今はマイスターまで行っているので、ポイントは必要ないかなという方がいらっしゃるのも事実です。

ただ、今後もアプリで継続されるので、市民にはアプリの取得の方もご案内しながら、健康づくりに取り組みながらプレゼント応募にも参加できることを伝えています。今後も啓発も含めて県との協働の取組を、継続していただきたいと考えております。

【新谷会長】

健康パスポート事業のポイント付与にも関連した事業所としては、保健指導ですとか運動施設ながらポイントの付与などがあつたと思いますけれども、健康パスポートに関連した取組で何かご意見等ありましたらお願いします。

【植田委員 高知県薬剤師会】

高知県薬剤師会では、まず全国的に、『薬と健康の週間』を、10月17日～23日まで実施しました。その期間、薬局で血圧測定とか体脂肪測定などの取組を実施しています。その中で、健診の受診勧奨をしたりとか、そういう形で対応をしています。

あと、今は、土佐山地区で、服薬支援事業というのも行ってまして、その中で、お薬に関する相談会がありました。そういう取組を、一度できただけなので、今年度もう1回やろうと計画しています。また在宅での支援を多職種と連携して「飲み残しを防いでいこう。」と活動しています。そういった形で市民の健康づくりの支援を実施しています。

【新谷会長】

では、特定保健指導の分野ではいかがですか。

【上原委員】

特定保健指導では2枚ポイントシールをお渡しできるので、市民の皆さんは興味のある方とそうでない方がいらっしゃいます。今後アプリで取組となるとポイント付与をどうやってやるのかな、大変そうだなと思っています。特定保健指導の初回面接は20分ですが、現在も20分では終わらず30分くらいかかります。その時にアプリをだして、その説明をするとなると、慣れないこともあって、いま職場でどうしようかと考えているところです。

【桑尾委員】

確かに、高知家健康パスポートのポイントシールに対して興味がない方も去年と比べていらっしゃるように思います。上原委員がおっしゃるようにスマートフォンを上手く活用できる方とそうでない方がいらっしゃいますので、どうなのかなと思います。携帯電話をお持ちでない方もいらっしゃいますし。

【新谷会長】

ありがとうございます。運動施設ではいかがでしょうか。

【橋本委員】

スポーツ振興事業団の施設でも、施設を利用したらブルーを配布できるようになっております。健康パスポートがマイスターになっている方がいますので、その人に対してのメリットがあんまりないですけど、そういった方も参加できるプレゼントキャンペーン応募があるので、プレゼント応募のはがきが一緒に多くなるということもあります。健康パスポートがアプリに替わるということで、施設としては、QRコードを申請して、アプリでやりたい人はQRコードで、そうでない人はブルーのポイントシールを配布できるように2パターン準備しています。来年の4月から、QRコードのみという形になるので、そのあとどう移行していこうかなというのが、今後の課題かなというふうに考えます。

【岡田委員】

日本健康運動指導士会からは、ほとんど橋本委員と同じ意見ですけども、実際にもうすでに私もQRコードは施設として取得していますが、私の勤めている施設も、中高年者が多いので、いま4月の時点でポイントシールからアプリのQRコード読み込みに切り替えるような形でやらしてもらおうかなと思っています。

それこそ、お渡しするのが、ブルーポイントシールです。プレゼントキャンペーン応募のために、集めている方もいらっしゃいます。やはり、何かもらいたいのかなとか、ご褒

美みたいなのがないと動かないのかなとか、いろいろ思っています。

アプリは、若者にとってはいいと思いますが、なかなか高齢の方になるとアプリに替わることを伝えて、周知していますが、「それならやめる。面倒だから。」という声やっぱり多いです。しかし、丁寧に説明したら「やろうか。」という方も多いです。やはり「アプリになりますよ。はい。」では、高齢の方は特に、操作に慣れてないので、「やらない。」パターンに、なるんじゃないかという不安はあります。

【新谷会長】

ありがとうございました。

健診を実施する医療機関ではどうでしょうか。

【高崎委員】

高知市医師会では、ここ1年以上、新型コロナウイルス感染症にかかりきりになっております。新型コロナワクチンだけでも、当院だけでも月間450件ぐらいしてしまっていて、それにPCR検査を毎日してしまっていて、なかなかそういうゆとりがなく、ゆとりのある市内診療所がないと思います。また当院ではインフルエンザワクチンも、日に何十人というふうにやっております、ゆとりをもって対応できる状況には残念ながらございません。

コロナ禍でもそれを見込んで取り組めたら、もちろんこういう取組も大事だと思いますので、医師会としても、積極的に、サポートするような形でいきたいと思います。現時点では、高知市医師会の会議はほとんど、新型コロナウイルス感染症についての会議でありますので、残念ながら今すぐの対応という状況ではありません。このまま新型コロナウイルス感染症が収束してくれる場合は、何らかの形で会議でお伝えしたいと思います。

【新谷会長】

皆様ご意見ありがとうございました。

高知市の取組と合わせまして、高知家健康パスポートのポイント付与事業者も一緒に健康パスポート事業を盛り上げていけたらと思います。

2) 協議会委員からの報告

データヘルス計画（中間報告）について：高知市保険医療課 川上委員

【新谷会長】

ただいまの報告に関しまして、職域のデータと比較して全国健康保険協会の上原委員や、特定健診を実施なさっている高崎委員からご意見ありましたら、お願いいたします。

【高崎委員】

糖尿病に関しましては、新型コロナウイルス感染症の感染が広がってから全国でHbA1cの値が上昇した人が結構な割合でいることがわかりました。ある先生が、内科学会のデータを出された

のですが、受診の間が空いてしまったり、治療を中断してしまったりする人が、かなりいるようです。

それから直接関係ないですけど、胃がん検診とか大腸がん検診とかの受診率が下がっておりまして、胃がんとか大腸がんの手術件数が下がっております。新型コロナ感染症が落ち着いた後に、胃がん・大腸がんがぐっと増えてくるんじゃないかということが予想されています。

糖尿病に関しても、がんに関しても新型コロナ感染症が落ち着いてから増えてくるのではないかと危惧しています。

【新谷会長】

ありがとうございました。

では次の議題に移りたいと思いますけど、よろしいでしょうか。

3) 高知市の高血圧予防の取組について（事務局 北川）

【新谷会長】

現状につきましては先ほど川上委員さんの方から報告があった医療・健診などの現状も踏まえまして、高知市の高血圧についての取組について、何かご意見はないでしょうか。また皆様所属の団体での取組などあれば、あわせてご意見をいただければと思います。食・運動・健康管理など多方面からの関わりが必要だと思いますので、ぜひお願いいたします。

禁煙に関してご相談をうけることも多いかと思いますが、ご相談の傾向や高知市薬剤師会での高血圧に関する取組や啓発活動など高知市と協働の取組などないでしょうか。

【植田委員】

まず禁煙ですが、禁煙サポーターの取組も、高知市薬剤師会も、年に1回、研修を行ったりだとかしていますが、去年は新型コロナ感染症の影響で開催ができていません。

血圧に関しては、先ほどもありました高知県健康パスポートのヘルシーポイント付与があるので、相談を受けることがあるのですが、会としてイベントなどは実施できていません。

【新谷会長】

ありがとうございます。今、家庭血圧の重要性について言われていますが、医師会の高崎委員さん何か家庭血圧について、測定状況とか、現状何かご意見ありましたら、お願いいたします。

【高崎委員】

家庭血圧はすごく重要ですが、特定健診などで来られて血圧がすごく高い方が結構いますが、それが本当の血圧を反映しているかということ、本当に分からなくて、家庭血圧をみん

なが簡単に測れる環境が欲しいわけです。よく聞くと血圧計を持っていないとおっしゃっていて、これをどうしていけばいいのか、あるいはそのパブリックで血圧が自由に測れる環境を増やしていくのがいいのではないかと思ったりします。「皆さん、血圧計買って下さい。」とお伝えしても、「はい。買います。」という人が少ないです。

いろんな場所で、公共の場所で測れて自分で把握しやすいようにする環境を作ってあげることが大事なのではないかなと思います。特定健診で測る血圧が、その人の血圧を反映してないことが結構多いです。

家庭血圧が一番いいですけど、パブリックで測れる環境を整備していくのが望ましいのかなと思っています。

【新谷会長】

ありがとうございます。

最近では動脈硬化に歯周病が影響していると言われてはいますが、高知市歯科医師会の公文委員や、高知県歯科衛生士会の竹村委員さんから、何か情報提供とか、ご意見等ございましたらお願いいたします。

【公文委員】

歯科受診にあたって、血圧測定したりすることがありますが、これはあくまでも、そういう薬を飲んでいる方とか、自分で高血圧だと自己申告があった方、あるいは高齢の方とかは、これは僕個人の判断ですが、血圧が高そうだと不安があったら血圧測定します。なかには、上が200を超えたりする方がいて、基本血圧が200を超える方がいたら、治療ができないわけですが、中には普段はこんなに高くない、内服もしているとおっしゃる方もいます。主治医の先生に相談してから、考えましようかということもあります。実際確認してみたら、この方は、普段からも血圧が高いということも分かった、なぜ気が付かなかったかというと、実際にその病院に行けてなかったことがわかりました。薬を後で聞いて、内容を変えると、次回来た時には血圧が下がっていたということがありました。

歯科の場合とか、高崎委員が言われたように、特定健診とかだと、やっぱり緊張感で血圧が上がってしまいます。そこは本当に正しい血圧かどうか分からない場合もあると思います。普段から測っている方が、普段の血圧をわかっている。自分で測っていないと普段の血圧はわからない。

当然普通に内科に受診して薬をもらうに当たって血圧を測りますが、やっぱりそこでもどうしても血圧が上がってしまうと思います。やっぱり、普段から各家庭に血圧計があり、測っている場合は、「私は普段血圧がこれくらいです。今日ちょっとドキドキしているから上がりました。」といった申告があればわかると思いますので、各家庭に血圧計を置くようにしておけばいいのではないかと思います。

あともう一つ禁煙に関しても、歯周病の方で喫煙者が非常に多いです。インプラント治療は、基本的に喫煙されていない方が対象で、インプラントされる方は禁煙していただきます。それくらいたばこは口の中に関係しています。

それともう一つ糖尿病の話をしてみても、糖尿病は歯周病の重症者は血糖値が下がらない、今これは定説です。だから、ぜひとも受診する医療機関の中に歯科をいれてください。

それと、脳梗塞・心筋梗塞、これも歯性感染症が非常に関わるといわれていますので、やはりお口の中の健康というのも、全身の健康に繋がります。我々もできるだけそれは協力していく所存です。

ぜひとも、そういうところをこのリストに入れていただけたらと思います。

【新谷会長】

事務局からもぜひ検討をお願いいたします。

また、野菜っていうのが非常に血压に対して重要です。カリウムも多いので、ナトリウムの排泄作用もありますので、野菜を摂取していただくことは大切だと思います。高知市農業協同組合は欠かせない存在になりますが、植田委員の方から市民のための取組とか、PRなど計画をされていることがありましたらご紹介いただければと思います。

【植田委員 高知市農業協同組合】

当組合としては、そういった野菜に関しての取組ということはないですが、これからやっぱり秋野菜と冬野菜ということでほうれん草とかいろいろな野菜がこれから直販所とか、出荷が、メインになってくるかと思えます。そういったところで鉄分をとっていただくとか野菜で補っていただきたいなと思えます。

【新谷会長】

いろいろありがとうございます。

他に何かご意見いただける方おりますでしょうか。

4) 健康づくりに関する取組について

【新谷会長】

議事の4の健康づくりに関する取組について、ここでは、これまでの報告なども踏まえまして、新型コロナウイルス感染症の感染拡大も防止しながら、新しい生活様式の中で、皆様の団体同士で協働で取り組むこととか、取り組みたいこと、健康づくりの新たな取組などありましたら、ご提供いただければと思います。

いきいき健康チャレンジの方でも5つの目標に加えてやはりよく噛んで食べた、毎食野菜を食べた、減塩を心がけたという食習慣チェックも重要な取組だと考えます。

噛むことですが、これまでもよく噛むことの重要性についてはご発言いただいていたが、啓発内容についてのご助言とか、効果的な啓発についてご意見がございましたらお願いしたいです。

【公文委員】

先ほど言いましたように、まず口の中の病気は、歯周病、虫歯、これも一つの生活習慣病なんですね。きちっとした食生活をして、毎日歯磨きをしていたらならないです。だから、糖尿病とかとやっぱり一緒なんですよ。

そういう意味で、患者さんには、生活習慣が非常に関わってくるから、せっかく治療していくな、そういう状況にならないように、規則正しい生活を送ってくださいと言っています。

あとですね、今『オーラルフレイル』、口腔機能不全症のことですが、高齢で噛むことができないことと、実際に噛めていないというのは、また違います。だから、例えばそれに関しては、本人が自覚できるのが一番ですけど、周りの人も協力していただきたいです。

高知市歯科医師会も今度はリーフレットを作りますので、活用していただければと思っています。

【新谷会長】

口腔に関することは非常に重要ですが、健康づくりの取組や啓発に関してご意見があればお願いします。

【竹村委員】

ほとんど公文委員がまとめておっしゃっていただきましたが、高知県歯科衛生士会としては、お口の健康に関するお口の体操も大切だと思っています。高知市ではかみかみ百歳体操があり、それを継続されています。みんなが集まれる場所がある場合はいいですが、なかなか集まらない場所も地域にはあると思います。そういった小さな地域でも活用して実施できるような地域に密着した形で高知県歯科衛生士会も活動していかないといけないかなと思います。

場所がないとできないというのではなくて、「地域の方たちが中心になって活動して下さるところだったら、協力しますよ。」という形で取り組むこと、PRがまだまだ足りないと思いますので、やっていかないといけない一つだと思います。本日の会に参加して思うところでした。

【新谷会長】

ありがとうございました。

ほかの方のご意見はないでしょうか。ここで、高知県栄養士会の取組もご紹介させていただきたいと思います。

高知県の外来栄養食事指導料の算定は、令和3年度の年齢調整レセプト費で全国が100の場合高知が68.9と、十分な食事指導が提供できておりません。

その要因としましては、管理栄養士のいる診療所が少ないこと、病院でも外来栄養食事指導が十分に実施できていないことなどが考えられます。

そういうことを踏まえまして、当会では、血管病の重症化予防に食生活の改善が非常に重

要であることから、平成 29 年度から高知県の委託を受けて、外来栄養食事指導の推進事業に取り組んでおります。

この度、協力医療機関の拡大、県内医療機関への広報啓発活動の一環として、県民の皆様が広く栄養食事指導を受けられるように、県民向けのチラシと、医療機関向けのチラシを作成いたしました。

今日は皆様のお手元にはまず県民向けのチラシの紹介をしております。このチラシを、皆様方の団体で、栄養指導を受けたいと思われる方がおいででしたら、ぜひご活用をいただけますと、非常にありがたいと思います。チラシに関して、何かご質問や、ご意見等ございましたら高知県栄養士会事務局まで、ご連絡いただければと思います。

ほかにご意見はないでしょうか。

皆様、本当に多くのご意見をありがとうございました。

今後も、引き続き感染症対策をしながら、これまで以上に工夫した取組が必要になって参ります。日頃の連携を密にしてとれることが重要だと改めて思いました。

この協議会を通じて、広がった取組や新たな取組がありましたら、ぜひ次回の協議会でご報告いただければと思います。

それでは時間も参りましたので、事務局の方に進行をお返しいたします。

5 事務連絡

6 閉会